

(添付書類用)

令和2年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体 自主防災・自治会連合会・地域
づくり協議会

事業名	1	地域防災強化事業		
事業期間	令和2年6月～令和3年3月			
決算額	139,791 円	助成金充当額	100,000 円	
事業対象者	見初自主防災役員・単位自治会長・見初地域づくり協議会役員及び理事	参加人数	延べ、60人程度	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 新型コロナ感染問題により、地区全体を対象にした事業は実施できなかった。そこで、密にならないように、役員等を対象に研修会を中心に実施した。また、この際、防災の備蓄品を食料を中心に予定より多く購入した。			
事業目標	全地区民の防災意識の向上、防災時の地区としての防災グッズ・備品の充実、役員の研修会の充実、そして地区民の「自助・共助」の向上を図る。また、「withコロナ」時代の防災のあり方を検討する。			
	数値目標	令和2年目標	令和2年実績	
	この事業に関わる人数を昨年度比105%にする。	未達成	人を対象にした事業は展開できなかったが、その分、防災関係の備品等の備蓄、今後核となる役員の研修に重点を置いた。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) 新型コロナ禍で人を集めての事業は十分には実施できなかった。その代わりに、防災関係の備品として防災トイレを購入、また備蓄食料品の数量を増やした。しかし、啓発関係は十分には出来なかった。この点においては、令和3年度の課題となった。役員会は、例年より回数が倍加し、防災に関する役員の意識は向上した。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 新型コロナ感染問題、地区全体を対象とする事業が実施できなかった分、役員会を充実させたので、上記にも書いたが、役員の防災意識が高まり、次年度の事業展開の充実の見通しが持てた。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・地区民全体への啓発活動の在り方。 ・防災時の避難所の具体的な活動の仕方。 ・防災組織の再検討			
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか	1	②	3
	助成金を有効に活用できましたか	1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか	①	2	3
	今後も事業継続できますか	1	2	③

(添付書類用)

令和2年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体 見初地域づくり協議会・見初地区体育委員協議会・見初ふれあい親和会

事業名	2	健康づくり事業		
事業期間	令和2年4月～令和3年3月			
決算額	554,338 円	助成金充当額	200,000 円	
事業対象者	親和会会員・地域づくり役員・体育委員協議会役員・見初地区民	参加人数	延：約350人	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 芸能文化祭を3世代の出演・出展で実施。また、バザー等も「新生活様式」を考慮し出店。芸能文化祭入場者にも「新生活様式」を徹底してもらい参加してもらった。12月にはグラウンドゴルフ大会を3世代交流のもと実施。昨年度よりも多い参加者であった。			
事業目標	・WHOの健康の定義にあるように、単に「『病気でない』とか『病弱でない』から健康である」という考えでなく、「定義」に基づく「健康づくり」を地区の中に日常化することに繋がる行事をより一層創り上げていく。 ・「withコロナ」の研修会及び啓発活動を行う			
	数値目標	令和2年目標	令和2年実績	
	この事業に関わる人数を昨年度比105%にする。	達成	参加者全体は、新型コロナウイルス感染問題で増加はならなかったが、行事に関わったスタッフ人数は達成した。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) 達成できた要因は、新型コロナウイルス禍でも、あらゆる行事を実施する方向で検討していたことが、地区の各団体の役員の意欲につながった、と考えられる。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 地区が少し明るくなった。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 事業に関わるスタッフの若返りが必要。			
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか	1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか	1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか	1	2	③
	今後も事業継続できますか	1	2	③

(添付書類用)

令和2年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

見初小学校学校運営協議会・神原中学
事業実施団体 校学校運営協議会・見初小学校育友
会・見初地域づくり協議会

事業名	3	小学校との連携事業		
事業期間	令和2年4月～令和3年3月			
決算額	301,281 円	助成金充当額	200,000 円	
事業対象者	全地区民、小・中学校関係者	参加人数	内容的に人数としては換算できない	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 新型コロナ禍で、学校のほとんどの行事に地域が関われなかった。その代わりに、小・中学校が新型コロナ禍で必要とする物質的支援を中心に行った。			
事業目標	中学校、学校運営協議会、育友会・PTA、地区の連携で「with コロナを踏まえた新しい生活づくり」を模索し、新しいパターンを創っていく。また、「やまぐち型地域連携教育」を見初地区においてより一層充実させていく。			
	数値目標	令和2年目標	令和2年実績	
	昨年度とは異なる連携のあり方を創造する。よって、目標は「新形態」の件数。	達成	新型コロナの状況に応じて速やかに動く事が出来た。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) 達成できた要因は、学校との連携を充実させたこと。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 教員・生徒・児童にある程度の安心感が得られた。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 今年度の活動形態からは特にない。			
自己評価 (3段階評価) 1:不十分 2:効果的 3:非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか	1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか	1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか	①	2	3
	今後も事業継続できますか	1	2	③

(添付書類用)

令和2年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

地域づくり協議会・社会福祉協
事業実施団体 議会・民生児童委員協議会・ふ
れあい親和会

事業名	4	高齢者福祉事業		
事業期間	令和2年4月～令和3年3月			
決算額	199,706 円		助成金充当額	186,000 円
事業対象者	地区在住高齢者		参加人数	延：約180人
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 担当する部会を定期的に開催し、検討を重ね、実施した。			
事業目標	長寿のお祝いを地区で行うことで、「長寿の喜び」を実感すると共に、高齢者同士がふれあう機会を設定することで「高齢化地域としての見初」の活性化を図る。また、「withコロナ」時代の行事のあり方を意識して取り組む。			
	数値目標	令和2年目標	令和2年実績	
	ふれあい昼食会、レコードカフェ等の参加者を昨年度比103%にする	半分達成	ふれあい昼食会は、新型コロナ禍で実施できなかったが、レコードcaféは、密を避けながら実施したが、昨年度よりも参加者が増加した。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) レコードcaféが達成できた要因は、毎回感想を書いてもらったり、希望の曲を聞いたりしたことなどが上げられる。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 新規の参加者が少しずつ増加。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 男性の高齢者をどのようにして増加させるかが課題。			
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか	1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか	1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか	1	②	3
	今後も事業継続できますか	1	2	③

(添付書類用)

令和2年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

地域づくり協議会・環境衛生連合会・交通安全推進委員会・防犯連絡所指導員協議会・ふれあい運動推進委員会・社会教育推進委員会

事業名	5	安心・安全・快適環境づくり		
事業期間	令和2年4月～令和3年3月			
決算額	314,030円	助成金充当額	199,500円	
事業対象者	全地区民	参加人数		
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 環境衛生連合会見初支部を中心に、ごみステーションへの切り替えを中心に事業を展開した。			
事業目標	地域の「安全・安心・快適な生活環境」をより創造するため、よりよい生活環境づくり、交通安全関係の環境づくり、犯罪のない地域づくりの活動の事業を行い、より生活しやすい地域づくりを目指す。また、「withコロナ」に対応する環境づくり及び研修会を開催することで、新型コロナウイルス感染症の「第二波」に備える。			
	数値目標	令和2年目標	令和2年実績	
	生活しやすい地域という「感じ方の向上」となるため、数値には表しにくい「感じ方の向上」が、地域の行事の参加者の増加、地域の人間関係の向上につながる。また、新型コロナウイルス感染症「第二波」の影響の減少。	不明だが、少なくとも見初地区からは「新型コロナ」感染者は出ていない。	「新型コロナ」感染者は出ていないという点からは、評価出来ると考えている。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) 不明なのは、「感じ方の向上」をどのようにして数値化すると言うことが明確にならなかったため。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 特には記述できない。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 今年度は新型コロナ禍における検討だったので、課題を書くことは難しい。			
自己評価 (3段階評価) 1: 不十分 2: 効果的 3: 非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか	1	②	3
	助成金を有効に活用できましたか	1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか	①	2	3
	今後も事業継続できますか	1	2	③

(添付書類用)

令和2年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体 地域づくり協議会・子ども委員会・ふれあい親和会・
体育委員協議会・ふれあい運動推進員会

事業名	6	3世代交流事業		
事業期間	令和2年4月～令和3年3月			
決算額	92,072 円	助成金充当額	90,000 円	
事業対象者		参加人数		
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 新型コロナ禍ではあるが、常に行事が実施できるように検討を重ね、実施した。			
事業目標	三世代が交流する場として、伝統的な行事を含む様々な行事を実施する中で、地域住民相互の交流を深め、より一層深い交流のある地域を創造するために、「withコロナ」の時代に対応する行事を模索し実践する。			
	数値目標	令和2年目標	令和2年実績	
	「withコロナ」の時代に対応する新しい行事形態の創出	達成	新生活様式を地区内に定着させるために、全ての行事において、検温や消毒、蜜の回避、マスクの着用を呼びかけた。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) スタッフが新生活様式の必要性を理解して行事に臨んだこと。また、新生活様式に必要な備品等を地域づくり協議会で購入し、全ての団体が使用できるようにしたこと。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 新型コロナ感染者は、地区からはまだ出ていない。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 新型コロナ禍に対応する行事形態は今後とも模索する必要がある。			
自己評価 (3段階評価) 1: 不十分 2: 効果的 3: 非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか	1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか	1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか	1	②	3
	今後も事業継続できますか	1	2	③

(添付書類用)

令和2年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体 地域づくり協議会・子ども委員会・
ふれあい親和会・体育委員協議会・
ふれあい運動推進委員会

事業名	7	見初地区課題解決事業		
事業期間	令和2年4月～令和3年3月			
決算額	1,025,508 円	助成金充当額	224,000 円	
事業対象者	全地区民及びその関係者	参加人数		
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか)新生活様式プロジェクトを設置し、毎月1回の会議を行い進めていった。			
事業目標	「課題」の表面化及びふれあいセンターに住民が使用できるネットワークの設備の設置			
	数値目標	令和2年目標	令和2年実績	
	「withコロナ」の時代では「遠隔会議」等が当たり前になる時代でもある。それに対応するために、ふれあいセンターのネットワークの充実を図る。	半分達成	IT機器関係の備品の購入及びwifi設置は完了した	
	(達成できた、又は、できなかった要因) IT機器の購入・設置に関しては、地区内の専門家のアドバイスを得て、充実した機器をそろえることが出来た。しかし、それを操作する人員が足りないため、後半に普及させるには至っていない。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 少しずつ、リモートでの会議などが実施できた。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) IT機器を操作できるスタッフの充実。			
自己評価 (3段階評価) 1:不十分 2:効果的 3:非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか	1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか	1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか	1	②	3
	今後も事業継続できますか	1	2	③

(添付書類用)

令和2年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

見初地域づくり協議会

事業名	8 広報事業			
事業期間	令和2年4月～令和3年3月			
決算額	116,110 円	助成金充当額	50,000 円	
事業対象者	全地区民	参加人数	人数で表すことは出来ない	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 地区で行われる活動を毎月ほとんど網羅して地区民に知らせた。また、支援チームの欄を毎月補償し、健康・保健関係の広報を行ってもらった。			
事業目標	地区の毎月の活動を広報することで、全ての地区民に地域のことをより深く認知してもらう			
	数値目標	令和2年目標	令和2年実績	
	毎月1回発行する	達成	毎月A3両面刷りで発行した	
	(達成できた、又は、できなかった要因) 毎月の役員会等で内容の検討をしたこと。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 作成には毎月工夫したので、見初だよりに目を通す地区民が増えた。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 見初だよりの見出しをより工夫する。			
自己評価 (3段階評価) 1:不十分 2:効果的 3:非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか	1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか	1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか	1	②	3
	今後も事業継続できますか	1	2	③